

檀信徒各位

## 秋季彼岸法要のご案内

聖名 豪雨や台風、地震に見舞われた夏も終わりを告げ、  
秋のお彼岸を迎えます。

皆々様にはご健勝の事とお慶び申し上げます。

秋季彼岸法要を下記のように勤めます。

ご多忙の処とは存じますが、お繰り合わせご参詣下さいます  
ようご案内申し上げます。 合 掌

平成26年9月上浣

無量寺 住職 堤 俊翁 拜

### 記

※期 日 9月23日（祝）秋分の日

※時 間 午後1時より音楽法要・ご回向<sup>えこう</sup>  
午後2時より法話と歌唱指導（音楽法要の歌）  
今回は（四誓偈）お経の解説

※ご回向料

普通回向 1霊につき1,000円 以上 志納下さい。

※お供え米、お供え米料 随意志納下さい。

本尊様のお供え、お花代等にさせていただきます。

※郵便振替等で申し込まれる方も位牌型をお送り下さい。

※お袈裟をお持ちの方は着用の上、法要にご参加下さい。

# 釈尊の生涯 涅槃

クシナガラへと重い足取りで進まれた釈尊は、クシナガラの町を対岸に望見するヒラニヴァティ河のほとりの、とあるシャーラの双樹のもとで休息をとられた。釈尊はアーナンダに「わたしの上衣を四重にして敷いてくれ。わたしは疲れた。頭を北に向けて横になりたい。」と言いつけられた。いまや師の入滅の近いことを感じ取ったアーナンダは、横臥している釈尊の敷物にしがみついて悲しみに涙した。それに気づかれた釈尊は、「泣くのはやめよ、アーナンダ。悲しむでない、なげくでない。私がいつも説いているではないか。すべての愛するものとは、いつか離別しなければならぬ。およそ生まれたものはかならず滅するということがわを忘れてはならない。アーナンダよ、長い間わたしの常侍として、よく仕えてくれてありがとう、この上はさらに努めはげんで、究極の目的を実現せよ。」と教えさとされた。

## シリーズ お葬式 その三

### 院 〇〇 信士

#### 戒名（法号）

戒名をどうしたらいいか、戒名についてのことは意外とわからないことがあります。ここではこの戒名についてお話しいたします。

#### 戒名（法号）は授かるもの

戒名とは、戒律のある宗派で戒律を受け、仏の弟子になることで授与される名前をいいます。仏の教え、戒めに従うことを約束することで授けられるものなのです。ですから、本来は死後につけてもらうものではありません。生前に五重相伝や授戒会を受けることなどで、いただく名前のことなのです。

〇〇

この部分に書かれるのが道号です。道号は、芸道を行っていた方、茶道などを極めた方に送られるおくり名です。

△△

ここに来る二文字が戒名となります。

法号の最後につくのが位号です。年齢や性別、信仰などによってつけられます。

水子、嬰子、孩子、孩女、童子、童女、信士、信女、禅定門、禅定尼、居士、大姉などがあります。

戒名は、仏の弟子になることで、お寺からいただけるものです。

#### 院

国の功労者、社会貢献者、寺院へ大きな力を尽くした人（本来、お堂を寄進するなどの物心両面にわたる貢献をした信心深い者）に授与されます。

#### 〇〇 信士

浄土宗特有のものです。五重相伝を受けた人に授与されます。

浄土宗ホームページより抜粋

# 法然上人絵伝

第七卷第二段

『華嚴経』を守護する龍、蛇となって披講の場に現れる

広い縁をまわした東南の角の部屋。外側の障子を開け放ち、白縁の畳の上に法然上人と弟子の信空上人が対面している。

漆の上に金銅の飾り金をつけたすばらしい経机の上に『華嚴経』を開き、ゆつたりとした姿で講義を続ける法然上人の机上に蛇が這い上がっている。蛇の嫌いな信空上人は顔をそむけ、庭前にある椿の花を見つめている。心なしか驚きのあまり目がひきつり、震えているようでもある。衣の裾も乱れ、袈裟もずれ、柱に体を寄せている。白壁を隔てて画面は一転する。

部屋は表の座敷の裏側になる西南の角。障子を開け放し、白縁の畳の上で、脇息にもたれて眠る信空上人。そこに雲に乗った恐ろしい龍が出現する。ものすごいスピードでやって来たのであろう。その影響で枝ぶ

りの良い古い松が形を変え折れそうになっていて。雲も渦を巻いている。そこに赤い火炎にふちどられた巨大な龍が突然あらわれる。首と良い肢体といい、実に躍動的で恐ろしい。蛇の恐さなど比較にならない。

表現のしようのない恐ろしさにびっくりした信空上人はとび起きたに相違ない。

しかし何物にもまさる恐ろしい力を持ったこの恐龍の「今後『華嚴経』を護り続ける」という言葉を聞き、信空上人はいまさらながら『華嚴経』のご利益の偉大さを思い知ったことであろう。仏教にまつわる龍の話は多い。



法然さまが答える

Q&A

仏の慈悲は等しく

**Q** 臨終のとき、不浄の人の場合には、阿弥陀仏が迎えに来られても帰ってしまわれると言われますが、本当でしょうか？

**A** 仏が迎えにこられるといふのに、不浄の人がいるからといって、どうしてお帰りになることがありません。

**仏** には身分の浄、不浄という区別はありません。物の見方によって、汚いものも清く見え、清いものも汚く見えるということなのです。ただ、念仏が大事なのです。清いからといって念仏しないようでは利益はありません。あらゆるとらわれを捨てて念仏を申しなさい。このことには多くの証拠があります。

(第四百十条)

## イタリア風精進料理

## 秋きのこのこのリゾット



## 材料 (2人分)

◆しいたけ	4個
◆まいたけ	1/3パック
◆シメジ	1/3パック
◆エリンギ	1本
◆えのき茸	1/2パック
◆白飯	200グラム
◆オリーブオイル	100cc
◆昆布だし	200cc
◆とろろ昆布	5g
◆塩こしょう	少々
◆イタリアンパセリのみじん切り	少々
◆粉チーズ	大さじ1

**1** きのこをそれぞれ乱切りにして、分量の半分のオリーブオイルをフライパンに引き、しんなりするまで強火でよく炒める。



**2** 鍋にご飯と1、だしを加え、木べらで全体を合わせ再び火にかける。



**3** とろろ昆布と粉チーズ大さじ2を加え、とろみが出てきたら塩こしょうで味を整える。これをお皿に盛り付けイタリアンパセリと残りの粉チーズ、とろろ昆布を散らし、仕上げに残りのオリーブオイルをかけて出来上がり。

## ADVICE

本来は生の米をブイヨンで炊いたものをリゾットといますが、今回は家庭で簡単に作れるよう、炊いたご飯を使用しました。

きのこは強火で香ばしくなるまで炒めることで旨味・香りを引き出し、2の過程でご飯にだしの風味ときこのうまみを十分吸わせましょう。

もし余裕があるようでしたら、本格的なリゾットを作ってみてください。1の後に、生米(80g)を加えてよく炒め、材料の4倍のだし(800cc)を3回にわけて、お米にかぶる程度加え、お米がやわらかくなったら(約10分程度)3の行程で仕上げましょう。秋の味覚として代表的なきのこは、カロリーも少なく健康的な食材です。お米と合わせることで、きのこのだしも出て、風味豊かなリゾットが出来上がります。